

子どもたちはもっと輝く!

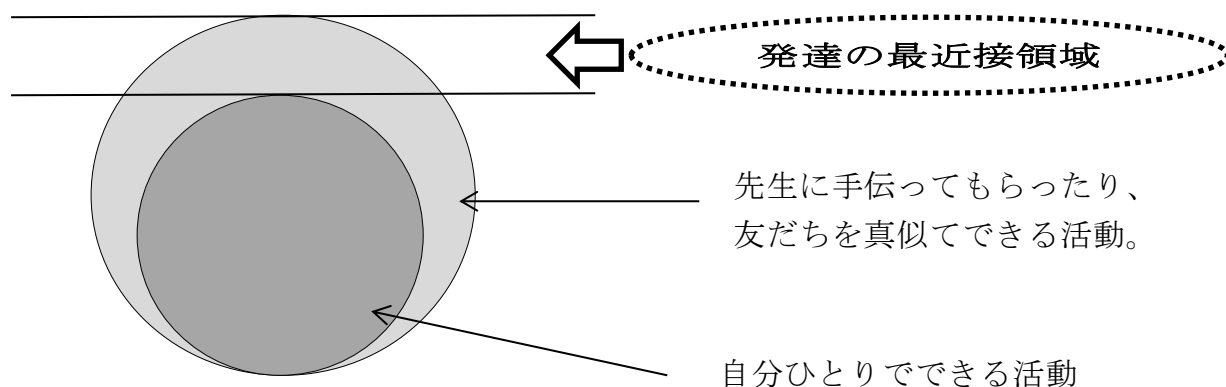
大阪府立佐野支援学校
センター室だより

No. 3

「できそうでできない場面での葛藤こそ 発達のエネルギー」 「発達の扉（上）」：白石正久著 かもがわ出版より

私たちは使命感に燃え、「子どもたちのできることを増やしたい!」と、常に思っています。が、「できないこと」や「わからないこと」を繰り返し伝えるだけでは、教育効果は薄く、「できないこと」を繰り返すことで逆に劣等感を覚え、自信をなくしてしまうこともあるのです。

一番いいのは「できそうでできない」ような課題設定をすることです。



<指導の基本>

- ① 「できること」にしっかり取り組むことで、失敗ばかりで自信が持てない子どもたちが自信を持てるようになる。
- ② 「成功体験」の蓄積により、子どもたちの「もっとやりたい」という気持ちが高まる。
- ③ 子どもたちの活動が自主的に広がり、いろいろなことへの挑戦が始まる。
- ④ 広がると「できそうでできない場面」が出てくる。
- ⑤ その場面での葛藤が「発達」のエネルギーとなる。
- ⑥ ここで良き理解者の援助や集団の力を借りると乗り越えることができる。